

県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

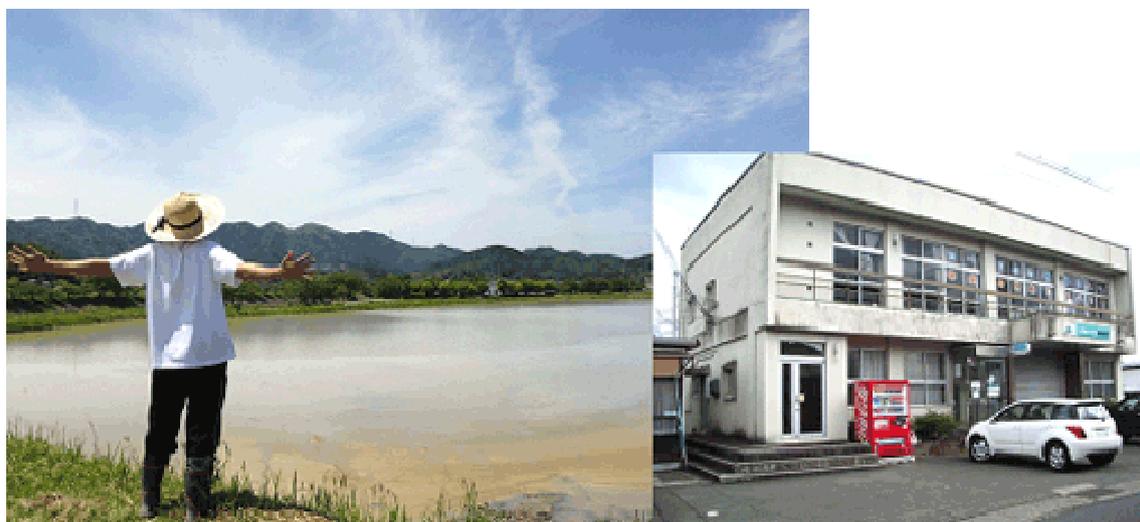
掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期	平成 27 年 11 月
テーマ	活力ある賑わいのまちづくり
寄稿者	篠山市 西紀南まちづくり協議会 事務局長 北山 透

1 住んでみたいまちづくりに向けて

当地域は篠山市の西部に位置し、肥沃な田畑に恵まれて米作や川北黒大豆に代表される畑作が中心の温かな地帯です。また近年は J R 篠山口駅、舞鶴若狭道 I C に 10 分程度という交通アクセスの良さから企業立地も進み、人口が流入し通勤通学する住民が増加するなど非農家世帯が増加してきています。一方では農業を担ってきた世代が高齢化により農地の維持管理が困難になってきている現状も現れてきています。

私達が誇る田園風景も徐々に変化しつつあります。このような状況の中、「住んでよかった」、「住んでみたい」田舎まちとして、また将来にわたって誇れる地域とすべく、将来像を明確化し住民意識の共有化を図りながら実践していくための地域組織として「西紀南まちづくり協議会」を発足させました。また同時に県民交流広場事業の支援を受け地域づくりの拠点施設「みなみ・ほっと・サロン」を整備しました。



2 まちづくりへの取り組み

私たちは地域課題を理解し「住んで良かった」「住んでみたい」田舎まちを構築するため、以下の三つのスローガンを柱に地域一体となって取り組んでいます。

(1) ふるさとに誇りを感じるまちづくり

地域内の史跡、歴史を知り、住民のみんなが地域を知ることから始めます。神社仏閣は勿論、小さな道標や記念碑にも供養塔にも歴史があり、祖先の生活を知ることができます。伝説や民話など収集して記録をつくり、地域の内外にも発信します。

伝統的な郷土料理の実習を通じて調理法が失われないよう努めます。村の言い伝えや風習、年中行事など地区内に住む人も、地区内に転居してきた人も郷土になじみ、郷土から外に出て行かれた方もこの地を懐かしむ、そんなまちづくりに努めます。

・・・「にしき南ガイドブック」冊子を発行し地域内外に広めています

(2) 人的交流によって活性化を図るまちづくり

当地域への農村ボランティア受け入れ、阪神間の大学生との地域交流など、地域外の方々とも交流を図るとともに“ふれあいの集い”を基点にした地域住民との交流にも努め、同時に定住促進のための地域の良さをアピールしています。

・・・特に年々学生の参加者が増え続ける神戸大学生を中心としたサークル「にしき恋」との交流は特筆すべき事業として県内外に知られてくるようになりました。



(3) みんなで助け合いができるまちづくり

平素から地域間交流、世代間交流をすすめ、災害など非常時でも助け合いが自然にできるまちづくりに努めます。

・・・防犯、防災マップを当まち協内の全地区ごと完成させる。(残り 5 地区)

3. 町の活性化に向けた若い人達との交流

当地域には3年前より神戸大の学生を中心としたサークル“にしき恋”との交流を実施しています。学生の自主的な行動に任せつつ、地域の中に溶け込んで農業のお手伝い、地域のイベントに積極参加してくれています。また当地の休耕田をお借りして、学生が自ら地元の農家さんに1から指導を受け作物づくりに励んでいます。

ここまで学生たちが好んでこの地に来てくれる訳を聞いてみると、「農作物の作る喜びを肌身で感じることができ、また地域の方々が温かく接して下さるから」と西紀南地区を愛してくれている理由の一端を話してくれました。



学生たちが当地で活動拠点としているのは、県民交流広場事業の支援で開設した当まち協の建物拠点である“ほっと・サロン”で、着替え、会合、時には宿泊も行っています。



地域住民のみなさんは、いつも土、日は“ほっと・サロン”前に来ると若い学生の声が聞こえ、笑顔で挨拶してくれるので、元気がもらえると非常に喜んでいただいています。

今後もこの交流事業をより発展させるため、将来は地域特産品の開発を学生たちの知識、知恵をいただいて見いだすつもりで現在まち協と学生たちと共にプロジェクトを立ち上げたところです。